みにくい議長争奪劇

清潔すぎる市長　議会工作を上手に

記者が語る　議会よもやまばなし

財政難のためにで寸前にあるといわれる市政の動向を、左右する市議会の動きなどのように見、どのように考えているか、議会開催中のある日、毎日、高新などの記者たちをあつめて、議会よもやまばなしをしてもらった。なお、こんごこのようなよもやまばなしを、ときおりひらき紙上公開することにしている。

〃まず初めに、こんどの議会に提案されるといわれている助役問題から

▼明日の議会最終日に助役選任の議案を出すかどうかは今日までの模様からみると四分六で出さない線が強い。

▼一口にいって、議員がむくれている現在の情勢では無理だ。それは、事前に市長が議員に相談しなかったことにあるようだ。

▼市長は、最初北部から出したいといっていたが、その後課長会にはかり、現在職員内から起用する線を出していたが……

▼この前の教育長ヒ免問題のときもそうだが、事前に議員に相談をしないので、その点議員が不満に思っているネ。

▼市長は自分の腹づもりだけでやっているが、腹芸も必要だが大事なことについては、事前工作が必要だ。

▼要するに純真すぎるのではないだろうか、政治的にはやはり、うたがいを持ってかからなければ駄目だネ。

▼自分の初志をつらぬくためには議会工作は、当然やるべきだ。

議場は無言と雑言で

〃西村市長退陣間際にあった議会の派ばつはどうか

▼七十五日のうわさどおりに、現在では派ばつ関係はないネ。

▼教育長問題でややしこりができたが、なんらかの問題が起こらない限り、過去のようなシコリは表面化されないだろう。

〃議員の出席率や、その態度はどうか。

▼出席はいいネ。しかし、役目をひいたとたんに極端に出席しないものがある。態度は悪い方かな。

▼悪くはないネ。といっても良い方ともいえない普通だネ。これは、……

▼これはおどろくべきことだが、正式の本会議場でまだ一度も発言しない議員が一人いるヨ。

▼その反面、学がありそうになんでもいいたいことをいいたがるものがいる。

▼一口でいいものを二口も三口もだらだらやるのは、その人の値打ちが下るネ。

▼議案を採決するとき、くわえタバコで採決した議員があったが、正式議場は静粛にし禁煙すべきだが。

▼最近すくなくなったが、どこからとなく電話がかかり、そのまま議場から姿を消す議員もいる。

執行部は――信念をとおせ

〃それでは執行部の方はどうか。

▼市長は職員に無視されているのではないだろうか。例えば名札をつける問題にしろよいことでも、職員の圧力で実行されないのはどうしたことか

▼もうすこし強気であってほしい。職員も待遇改善だけでなく、課せられた義務や、服務命令は尊重するよう心掛けるべきだ。

▼質問に答える執行部や、課長の説明は(一部の者を除いて)まずいものだ。もうすこし、適切な説明をすべきだ。

▼市長の判断は甘すぎはしないか、主観的に考えている面が強い。

▼だから助役問題など大事なときに、不手際な面が出てくるのかナ。

▼執行部の提案理由の説明も内容があいまいで下手だネ、研究が足りないではないかな。

▼議案を自分のものにして議会にのぞむべきだ。

〃執行部はその辺として、議会運営の面では

▼現在の議長の議事運営は駄目だネ。何事も事務局長まかせの感がする。

▼同感だ。正常な議会で壁にゆきあたった場合やまたなんでもないときでも、すぐ休憩にしたがる嫌いがある。休憩をせずその壁を突き破ることを考えるべきだ。

▼そこが正副議長の腕にかかっているのだが

▲それはそうと、議長の改選期になり、またまた暗躍が始まったネ。

▼「ワシを議長にしたら議員の歳費を上げるとか」「議長を南部地区から出すから助役を北によこせ」とかいうウワサが単なるウワサであるとしても、ウワサが流れるところに疑惑がある。

▼それに常任委員の改選をすぐ目前にひかえ、視察旅行にゆくそうだが、これなんかもおかしなものだ。

▼単なる慰安旅行としかとれないネ。全員がその常任委員に残るわけではないのだが

▼まあいえば議会横暴というところだヨ。それに議会費は、執行部の予算にくらべると、たいへんめぐまれているからネ。

みえてきた真剣さ

〃陳情したら得といわれているが

▼それはたしかにいえることだ。陳情団が議場にくれば、とたんに普段発言しないのに、このときとばかり机をたたいて、発言する議員がいる。

▼議員の改選を来年にひかえ、陳情が急に多くなったとある課長はいっている。全然資料もなく具体案もない陳情にも、つきそってくる議員もいる。

▼ある小学校の移転改築で鉄筋処てにせよ、とあじっている地元議員もいる。鉄筋にこしたことはない、とわかっているが、市のふところ具合を知っているのだろうか、うたがってみたくなる。

▼職員の異動についても、議員の口ばしが入っているのは不都合なことだ。

〃わるい面だけでなく、なにか良いことは

▼良い面といわれても、チョトないな。テストすれば村会議員程度の素質のものが多く、無事合格というものは、少くないじゃないかな

▼しいていえば、勉強する議員が増え、議事に真剣さが見え始めたことだ。

▼それと執行部への喰い下がり方が、うまくなったといえることだろう

議員定数を減らせ!!

〃では最後になにか

▼市長は、すべての陳情や会合を、自分で受けているようだが、全部へ出ることは親切ではあるが、担当課長などにまかせるものはまかし、窓口を広げすぎないようにすべきだ。

▼それにはやく市政を、自分のものにすべきだ。よいことであれば圧力問題があったとしても、押し通したい意議と信念をもってもらいたい。

▼議員の数を少くなくすべきだ。そうすれば議員の質があがるだろう。

▼発言しない議員が多い議会でも、議事が、立派に運営され、市政は執行されているから議員数を、二十人に減しても大丈夫だ。

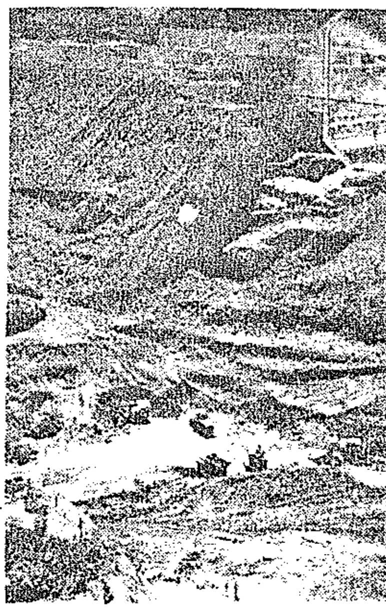
▼是非少なくしてもらいたい。そうすれば有能な人物が、出るしおのずと歳費の面も解決しよう。

▼全国の数多い中小都市で現在減員しているところのあるのをみても、南国市だってやれないことはないはずである。議員諸公の決断を望みたい。

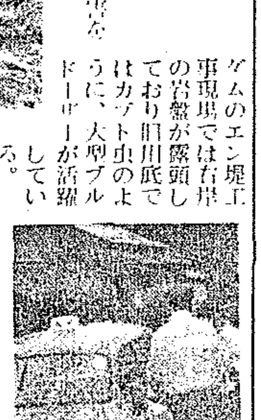
〃それではこの辺で

(題)(話) ダムと黒滝

上倉地区奥神の黒滝は、穴内川＝香美郡土佐山田町＝ダム建設のため被害を受ける。



ダムのエン堤工事現場では右岸の岩盤が露頭しており旧川底ではカナブ虫のように、大型ブルドーザーが活躍している。



(写真参照)黒滝地区の被害者は、ほとんどが新天地を求めて立ちのき残留者たちは結束して〃新黒滝〃の郷土づくりにかかっている。

ところが、移転には珍らしいケースがあった。写真(の右上)が

それで、手前の橋は水没する黒滝橋、前方の山にある住宅は水没被害者の移転住宅で位置はダムの満水線に手が届くところ。

補償金の支払いが始まったところから、へき地黒滝にタクシー利用者が多くなったのも、変ったすがたの一つといえよう。(写真参照)

しかし今後の市政は黒滝残留民を忘れてはならない。

二番稲良好

市内の二番稲はさる三十三年に次ぐ豊作と伝えられ、反当平均収量は五俵余ではないかとみられている。なお人手不足やそ菜栽培のため二番稲をやらなかった面積は、計五十町歩ほどの見込み。

ハウス園芸急上昇

明年度売上げ七億円か

南国市内のビニールハウス園芸は、ここ二、三年来急速に増加し、三十七年度は五億円以上の売り上げがあったが、三十八年度はさらに多く、七億円を突破するのではないかとみられている。

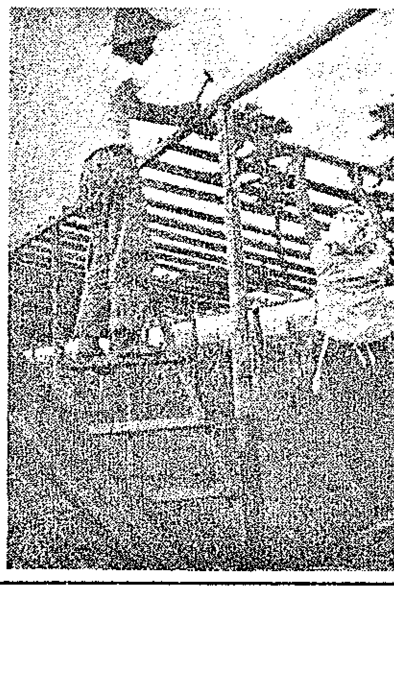
日章各地区は、ハウス建設の最盛期で、木骨竹での他か鉄骨も多くなっている。もっとも面積も多いのは加温園芸の〃しにせ〃といわれる十市で三十数町歩といわれる。

その他海岸地帯の前浜、三和から北上し日章、野田、大篠、長岡、久礼田岡豊までの間にわたり、総面積は五、六十町歩になるようだ。

作物の中心はキュウリ、ナス、トマト、ピーマンで売り上げ総額の約三分の一は十市が占めることとなる。

市としては米、葉タバコに次ぐ大きい収入だ。

園芸生産物は従来はキュウリを筆頭に、ナス、トマトがおもなものであったが、最近ピーマンの栽培が盛んになり、明年の作付け面積は本年の倍といわれる。



〃写真はハウス建設風景

水稲の集団栽培とは

人間は社会とゆう共通の広場で生活している。

稲は水という共通の運命をもった水田という共同社会で育っている。

農業経営もこうした共通の条件の下で稲作が繰返され人間が共通の条件にさからっている。例えば一枚の畑枚、一本の土管で水の加減をする中で、マチマチの稲を作り、その上がかりの田が、かりに一〇枚あるとして一〇人が作っているとしたら、少なくとも五、六種類の稲が作られ毎朝一〇人が水を見にゆき畦一つ隔てて、マチマチなことをやっている。最後には夜中にコソコソと出かけ文字通り我田引水をやる、今まで気がつかずに無理して、苦労のかかる稲作をやっていたのではないだろうか。一〇人が思い思いに早生から晩稲を作って水落しして干したい場合でも水が入って、干すことも出来ない。これでも当り前のように思ってきた。

条件の似通ったこれら団地を集団栽培したらどんなものか、水も、人[illegible]交代なら一〇日に一回行けばよい、同じ日に二・4Dを共同でやれる。一〇人が個々に同じ肥料を配合するなら共同で配合した方が楽であろう。

条件の類似した区画毎に品種を決めて、植付時期も揃え、肥培管理みんな歩調を揃えていくことにしたらと考えると、なんだか一種の束縛を感じて、戦時中の押しつけに似た強制的のように思われるかも知れない。しかしそれは違うのである。勿論お互いによく話し合ってやらねばならない合理的な栽培体形を組み立て、生調を揃えて、みんなが増収し、且つ省力できることがなんの束縛であろう。

今の個々バラバラの栽培慣行の中で満足し、集団栽培に束縛を思うとしたら、その人は自分の稲作によって、まわりの人の稲作を束縛しているともいえる。

今までの栽培慣行に、みんなが束縛を感じないのは長い因習になれてしまっているのではないだろうか。思い思いの品種が作れることが何も自由ではない。お互いに隣り同志が意識せずに邪魔をし合って減収しているなら、自由のように見えるだけで、こんな哀れな稲作はない。

保母さんのいない幼稚園の綱引きみたいに味方同志が向い合って引張ってワアワア騒いで面白がっているようなものではないだろうか。

農業構造改善は侍んなで話し合い考え合って合理的な経営えと体質を換えて行こう。真剣に考えて見たい。

科学

磁石

磁石は数千年も昔に[illegible]期にあったようです。指南車と呼んで、いつも方向を教えてくれるので戦争には大いに利用され、ヨーロッパからペルシャ、ヨーロッパへと伝わっていった。

磁石には大きな性質が三つある。一つは南北を指すこと、二つには鉄を引付けること、三つには磁石の近くで電気を流すことのできるもの、例えば銅線や針金のようなものを動かせばこれに電気が起る。コロンブスがアメリカを発見し、伊能忠敬が正確な日本地図を作ったのも磁石の方向を示す性質を利用したものです。電信器やベルが鳴るのは磁石が鉄を引付ける性質を利用したものです。第三番目の性質は最も重要な役目をしています。磁石が強いほど、銅線が速く動くほど強い電気が起ります。これをうまく利用したのが発電機です。小は自転車の発電ランプから大は何十万キロの発電機まですべて磁石のお世話になっています。磁石には鉄がそのまま磁石となっているものもあるが、鉄芯に電線を捲いてこれに電流を流すと強い磁石になり、これが電磁石であって、大きな発電機は皆この電磁石を使っています。

磁石の研究は日本は世界一進んでいて、本田光太郎博士のKS磁石鋼、三島徳七博士のNK磁石鋼は世界一強力です。三島博士が世界で一番磁石に強い鋼を作ろうとしてできたものがなんと世界一強力なNK磁石鋼となった。両極(6←5)端は一致しているような気がします。磁石がもしなかったら、電気は起らず、電燈、テレビ、ラヂオ、電車、モートル、電話等の電気を利用するものが全部なくなるので文明はいっぺんに徳川時代に戻ります。

磁石は赤道附近では水平ですが南北に行くにしたがって傾き、カナダの北部南極大陸のある点に行くとついに直立する。この点が地球の北磁極南磁極です。磁石はマグネットと呼ばれているが、これは昔小アジアのマグネシヤ地方で磁鉄鋼が発見されたためです。光と電気と磁石は切っても切れぬ大切な関係にあります。アインシュタインはこれらの関係を一つの式で示そうと研究していた。

鉄空(ロケット)